

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

新潟県防災キャンプ推進事業

新潟県

【事業のポイント】

- 市町村における、地域ぐるみで取り組む防災キャンプを新たに拡充
- 県立青少年教育施設における避難所生活を想定した防災キャンプの実施



【救命救急実習】(少年自然の家)

1. 企画

(1) 事業実施の背景

新潟県においては、度重なる地震や豪雨による大きな被害を受けている。そのため、市町村においては、災害対策ガイドブックや防災マップの作成、学校や地域コミュニティによる防災訓練等が行われているが、これらを日常生活や災害時に生かすことや、災害時に学校と地域が連携して行動することが求められている。

本事業は、平成24年度より県内の市町村に再委託し、学校を避難所と想定して学校区の児童及び保護者、地域住民、関係機関の連携した防災キャンプを実施するとともに、その成果を県内市町村や学校等に広く周知してきた。

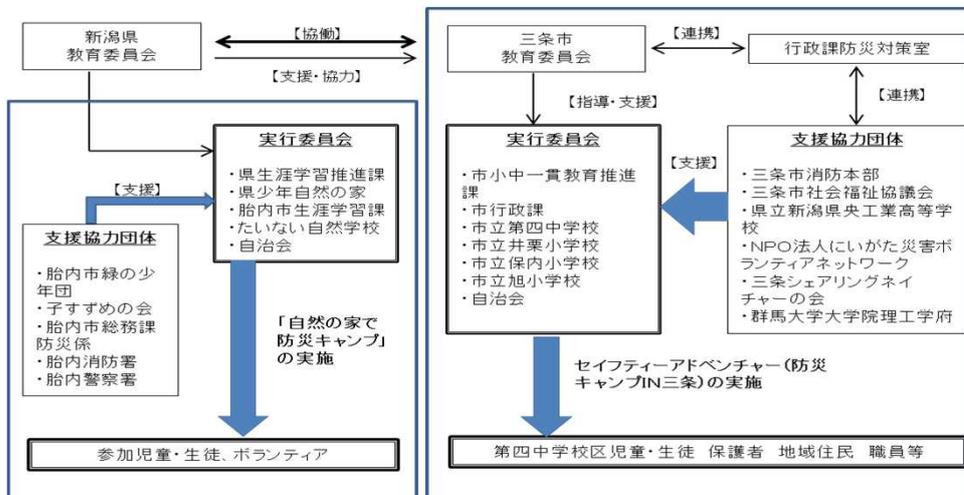
(2) わらい

3年目となる今年度は、過去2年間の取組成果をもとに新たな市町村にも取組を広げるとともに、避難生活が長引いた場合に備えたプライバシー保護や心のケアなども組み入れたプログラムを県立青少年教育施設で実施し、このプログラムを通じて防災キャンプの普及を図るものとした。

なお、新潟県教育委員会では、平成26年度より県下の小中学校に「新潟県防災教育プログラム」を配布し、すべての小中学校で実践的な防災学習の開始を目指していることから、今後、これらの取組成果が大いに活用されるよう、平成26年度はPRを強化する。これらの先駆的な事例の普及啓発に努め、県内の防災教育の推進に寄与すると考える。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2)開催実績	
月 日	内 容
8月7日(水)～ 8月8日(木)	セーフティアドベンチャー(防災キャンプIN三条)
10月25日(土) ～10月26日	第1回 自然の家で防災キャンプ!
2月21日(土)～ 2月22日(日)	第2回 自然の家で防災キャンプ!

3. 防災キャンプ実施概要

第1回自然の家で防災キャンプ!

- 期日 平成26年10月25日(土)～10月26日(日)
- 会場 新潟県少年自然の家
- プログラム
 - ・1日目(10月25日)
 - 野外炊きで昼食づくり(材料持ちより設定、火起こし体験)
 - プライバシー確保のための工夫(講義、段ボールハウスの作成)
 - ワークショップ(読み聞かせ…ボランティアによる講義、読み聞かせ体験)
 - 非常食体験(夕食)
 - 安全・安心のために必要なこと(講義、応急処置、ロープワーク体験)
 - 段ボールハウスで就寝
 - ・2日目(10月26日)
 - 非常食体験(朝食)
 - ワークショップ(レクリエーション…講義、屋内でのレクリエーション、野外ゲーム体験)
 - 炊き出し体験(昼食)
 - ワークショップ(読み聞かせ…読み聞かせ実践)



【段ボールハウスで読み聞かせ】

第2回自然の家で防災キャンプ!

- 期日 平成27年2月21日(土)～2月22日(日)
- 会場 新潟県少年自然の家
- プログラム
 - ・1日目(2月21日)
 - 昼食づくり(カセットコンロを用いた自炊)
 - プライバシー確保のための工夫(段ボールハウスの作成、ブルーシートの活用、暖を取る工夫)
 - 夕食づくり(カセットコンロを用いた)
 - 安全・安心のために必要なこと(講義、応急処置、ロープワーク体験)
 - ・2日目(2月22日)
 - 非常食体験(朝食)
 - ワークショップ(レクリエーション…講義、屋内でのレクリエーション、野外ゲーム体験)
 - 炊き出し体験(昼食)
 - ワークショップ(読み聞かせ…読み聞かせ実践)



【ロープワーク体験】

セーフティアドベンチャー(防災キャンプIN三条)

- 期日 平成26年8月7日(木)～8月8日(日)
- 会場 三条市立第四中学校、三条市水防学習館
- プログラム
 - ・1日目(8月7日)
 - 危険箇所探索フィールドワーク
 - マップ大作戦(安全マップの作成)
 - 非常食調理
 - 救命救急講習会(非常時の搬送体験)
 - 班別活動(夕食調理、避難所整備、高齢者等への配慮)
 - 洪水時の水流体験
 - 語り部によるお話(7.13水害の体験談を聞く)
 - 避難所で就寝
 - ・2日目(8月8日)
 - 非常食体験(朝食)
 - 班別活動の成果発表
 - 水防学習館研修



【地域の人と安全マップづくり】

4. 普及啓発の実施概要

- (1)新潟県ホームページにおいて事業内容及び事業成果に関するページを作成
- (2)リーフレットを作成し、県内の小中学校及び関係機関に配布
- (3)いがた生涯学習県民フォーラム(11月28日)において事業内容をパネルで紹介

5. 成果と課題

(1)事業成果

【県】

県として初めて県立青少年教育施設で防災キャンプを実施した。地域の自然体験・野外活動指導者や地域住民の方々をはじめ、施設のある胎内市の生涯学習課からも積極的に支援をいただいたことで、少年自然の家ならではの防災キャンプを実施することができた。

避難所生活を想定し、食事や宿泊場所をできるだけ実体験に近いかたちのプログラムとしたため、参加者は避難所生活を意識した体験ができた。また、今回のプログラムでは、避難所生活における避難者の心のケアに役立つような体験活動として、読み聞かせやレクリエーションの実践を行った。防災キャンプという活動の中では珍しい取組ではあるが、地元の読み聞かせボランティアやたいない自然学校の講師の協力により、有意義な活動となった。特に読み聞かせについては、参加児童どうしが段ボールハウスの中で読み聞かせを行うという、実体験に近い環境で実施できたため、参加児童にも指導者にも好評であった。

【三条市】

地域に住まう子どもたちが地域の特色を理解し、地域を愛する気持ちを育みながら日常生活における災害時の具体的な対処方法について、体験的に理解をすることができた。また、非常変災時には自らが判断し、自助の精神を発揮するとともに、自他を尊重しながら共助の精神を貫くことが重要であることを学ぶことができた。

災害時の生活体験の習得としては、非常食体験(アルファ米や乾パン等)をはじめ、避難所施設の設備設置体験、要援護者への対応体験、非常食調理体験などを学習することができた。また、プールを使った水流体験を通して、洪水時に水に浸かって歩くことの危険度を学ぶこともできた。

総じて、すべてのプログラムにおいては単なる体験や知識、技能の習得ではなく、「自ら考えて行動すること」が一貫したテーマとなっており、参加者各々が考え、知恵を出し合って思考を練り上げるような活動が多かったことが、最大の成果であると考えている。

(2)事業運営上の課題・留意点

少年自然の家での防災キャンプは、地元胎内市をはじめ周辺市町村からの参加が増加するよう、子ども会や青少年団体への周知が必要である。また、今回実施したプログラムをパッケージ化し、学校以外の団体や指導者を対象とした防災キャンプ体験ができるような仕組みづくりが必要である。

三条市では、特定の中学校区の児童・生徒から希望者を募って実施をしたが、今後は市内全域から希望を募って、小中学生防災リーダー養成講座に資するような活動に発展させたいと考えており、そのための具体的なプログラムを研究することが当面の課題である。

(3)その他

県としては、27年度も引き続き少年自然の家で防災キャンプを実施する予定。
三条市も市内全域から希望者を募り、規模を拡充して実施する予定。

6. 団体プロフィール

新潟県教育庁生涯学習推進課

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1

電話 025-280-5617

FAX 025-284-9396

E-mail ngt500060@pref.niigata.lg.jp

(再委託先)

三条市教育委員会小中一貫教育推進課

〒955-1192 新潟県三条市新堀1311番地

電話 0256-45-1118

FAX 0256-45-5309



【夕食の準備】(三条市)